





「やさシティ、まつど。」の進化と深化～多様な主体が奏でるSDGs未来都市の実現～

千葉県松戸市（2022年度選定）

1. 地域の特徴と課題及び目標	<p>本市は、都心への交通アクセス性の高さと豊かな自然を兼ね備え人口は約50万人と一般市の中で最多となっている。高度経済成長期にいち早く全国各地の住民を受け入れ発展を遂げた寛容性の高い住宅都市だが、当時整備された都市基盤が更新時期を迎えており、高齢化率が高い地域も存在している。東京に近い立地を活かし、Z世代が地域に愛着を持つための仕組みづくりも必要とされているところである。</p> <p>「やさシティ、まつど。」のオープンマインドとすぐやる精神を活かし、多様な人材の主体性を尊重し、産学官民の参画をコーディネートすることで、全ての人各自が自分らしく、豊かに暮らせる都市の実現を目指す。</p>	2. 関連するゴール 
3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)	<p>松戸市の発展の礎を築いたものの少子高齢化が進む常盤平団地エリアをモデル地区として、SDGs ネイティブなZ世代のアイデアを融合しつつ、地域の課題と市内外の多様な主体の地域資源をつなぎ、SDGsの推進及び地域の課題解決等を目指す取組を進め、常盤平団地エリアの価値を改めて高めていく。</p>	

4. 自治体SDGs推進等に向けた取組
<ol style="list-style-type: none"> まつどSDGsキャラバンメンバーシップ制度の開始 松戸市版SDGs宣言登録制度を開始し、SDGsに取り組む企業・団体等の裾野を広げる Z世代によるアクションプランの実行及び普及啓発活動 Z世代の参画により令和4年度に作成されたアクションプランを実行し、地域の課題解決やSDGsの普及啓発を図る ウェルネストラックの設置拡大 常盤平団地エリアのグリーンインフラを活かした健康プログラムの設置拡大を図る まつどSDGs×産学官民連携窓口の活用拡大 多様な主体の提案を受け取るための事業提案窓口の活用拡大を図る

6. 取組成果
<ol style="list-style-type: none"> 令和5年8月に制度を開始し、令和6年3月末までに60の企業・団体等が宣言登録した。 令和4年度に、市内4大学を中心としたZ世代の学生が主体となり、常盤平団地エリアが魅力あるまちになるために提案されたアクションプランを実行し、同団地エリアの課題解決等目的としたイベントを開催するとともに、SNSを通じたSDGsの普及啓発を継続実施した。 松戸市と千葉大学予防医学センターとの共同研究により、令和4年度に常盤平団地エリアに設置した、WEBコンテンツを含む健康ウォーキングプログラム(TOKIWALK)について、サインを7か所から22か所に増設し、利用促進を図った。 令和4年度に設置したまつどSDGs×産学官民連携窓口では、8件の提案を受け付け、保育の質向上を目的とした事業提案の実証実験を実施した。  <p>イルミネーションイベントの様子(項目2)</p>  <p>健康プログラム TOKIWALK (項目3)</p>  <p>まつどSDGs×産学官民連携窓口の様子(項目4)</p>

5. 取組推進の工夫
<p>SDGsの達成に向けた機運を高めるため、市の取り組みを広報物や市の公式ウェブサイト、SNSなどを通じて域内外に発信している。</p> <p>また、事業実施にあたっては地域住民等の理解や協力が必要なことから、随時、機会を捉えて、説明や意見交換の場を設けた。</p>

7. 今後の展開策
<p>令和5年度末までに開始した取組や制度について、積極的な情報発信を通じて認知度を高めるとともに、それらの内容を充実させることで、利活用の促進及び拡大を図る。</p>

8. 他地域への展開状況 (普及効果)	<p>大学等からの講師派遣依頼に応じて、当市のSDGsの取り組み等について講義を行い取組を発信している。</p>
----------------------------	--